

サウルに仕えたダビデ

(サムエル16・14～23)

一、主から来る悪霊

14節を見てまいります。〈主の霊はサウルを離れ、主からの、わざわいの霊が彼をおびえさせた。〉とあります。この文章を読んで、サウルが心の病になったとか、精神障害になったとか読まない方がよろしいです。神の御意思が示されつつ、それを行わなかったがゆえに、罪のゆえにもたらされた症状と読むのがよろしいかと思えます。主はサウルに罰を下したのではなく、自らの意思で御意思に従い、王位から退くことを待っておられました。それをするなら、主からの平安と喜びが回復し、サウルは慰められ、それまでの失敗が益となるはずでした。言わば、主はサウルに悔い改め(方向転換)を促しておられました。ちなみに、〈主からの、わざわいの霊〉という表現を見ますときに、わざわいの霊、すなわち悪霊であつても、主なる神のコントロールの下で活動していることと知ることができます。

時に、サウルの家来たちは、立琴をひく者を連れて来て立琴をかなでてもらうなら良くなるでしょう、と提案しました。15節く16節です。〈そこでサウルの家来たちは彼に言った。『ご覧くださ

い。わざわいをもたらす、神の霊があなたをおびえさせているのです。わが君、どうか御前にはべるこの家来どもに命じて、じょうずに立琴をひく者を捜させてください。わざわいをもたらす、神の霊があなたに臨むとき、その者が琴をひけば、あなたは良くなるでしょう。』〉音楽が心の病んだ人の治療に良いのは、昔からの知恵であつたようです。サウル王は、家来の提案に乗り気になります。17節です。〈そこでサウルは家来たちに言った。『どうか、私のためにじょうずにひき手を見つけて、私のところに連れて来てくれ。』すると、不思議なことに、天の配剤と申しましょうか、エッサイの息子のことを知っている若者がいました。18節です。〈すると、若者のひとりが答えて言った。『おります。私はベツレヘム人エッサイの息子を見たことがあります。琴がじょうずに勇士であり、戦士です。ことばには分別があり、体格も良い人です。主がこの人とともにおられます。』ダビデは少年時代から主がこの人とともにおられます。』と語られていた人であつたようです。これは最強の賜物です。

二、主が共におられる

ここで皆さま。「ダビデはいいな」とねたみ心を起こさないでいただきたいです。主が共におられるとは、イエス・キリストを信じる一人ひとりに与えら

れている約束だからです。神の御子イエス・キリストは、十字架にかかられる前の晩に弟子たちと共に食事をし、そして語られました。〈ヨハネ14・17〉と。この箇所は、主イエスが遣わされるも一人の助け主であり、慰め主である聖霊について語られた言葉です。さらに、復活なさった後に、次のようにおっしゃっています。〈マタイ28・20〉と。

「主が共におられる」とは、神がダビデに賜った最強の賜物ですが、その賜物が完成された形で、主イエスを信じる者に、聖霊によって授けられています。おそらく、その賜物は自分では気がつかないものでありましょうし、それがいいと思います。私たち自身は士の器であつて、〈ロコリント6・8〉10〉のような姿です。

三、サウルに仕えたダビデ

さて、サウル王は、家来の若者が答えた言葉にたいそうな関心を寄せ、エッサイの子ダビデを呼び寄せました。19節です。〈そこでサウルは使いをエッサイのところに遣わし、『羊の番をしているあなたの子ダビデを私のところによこしてください』と言わせた。〉とあります。16章前半では、主がサウルを王位から退けられた後、サムエルをベツレヘムのエッサイの所に遣わし、少年ダビデに次期イスラエルの王となるべく油を注いだという物語が書かれてい

ます。そのつなかりに、囚らずもエッサイの子ダビデが、サウル王の心をいやすためにサウルの家来によつて推薦され、王の命令によつて連れて来られたと書かれています。物語として、できすぎでしょうか。「そんなことはあり得ない」と思われるでしょうか。ですが、神はそのように導いておられます。困ったときに、問題を解決するための必要な出会いがあり、適切な情報を得ることがあり、必要な資金が与えられることがあり、不思議です。そういう不思議に、信仰者は、見えない神を見ます。

さて、エッサイはサウル王の召しに応じて息子ダビデを送り出します。こうしてダビデの、サウル王に仕える生活が始まりました。サウルはたいそうダビデのことが気に入りました。サウルにとつてダビデは、まさしく求めていた器だつたからです。サウル王はダビデを召し抱えることを決め、エッサイに使いの者を送ります。以来、ダビデはサウルに仕え、サウルは元気になるたびに、立琴をかなで、サウルは元気を回復しました。サウルは元気が回復しました。再び悪くなつては良くなりました。それは、サウルが自らの意思で王位を明け渡し、主の祝福が回復するようになるための猶予期間でもありました。しかしご存じのように、サウルは悔い改め(方向転換)をしませんでした。残念なことです。